

14 賢い保護者の七か条

① 子どもの手本にないましょう

- ・子どもは身近な大人を見て育ち、その真似をします。「あいさつの出来る子に育ってほしい」「もっと本を読んでほしい」と思ったら、まずは我々が元気よくあいさつをする、読書をする姿を見せましょう。良い背中を見せましょう。

② ほめて育てましょう

- ・人間にとって大変重要なのが自己肯定感です。自信と自分を大切に思う心です。ダメ出しよりも、子どもの良いところを見つけて、ほめましょう。叱る時でも、必ず良かった、頑張ったところをほめた後に、課題として言ってあげましょう。

③ 「早寝・早起き・朝ごはん」を身に付けさせましょう

- ・基本的な生活習慣の乱れは、学習意欲や体力、気力の低下に繋がるだけでなく、成長期の身体や脳の発達に影響が出てきます。十分な睡眠と栄養をとり、学校生活を元気よく送れるよう、家庭で生活のリズムを作り上げていきましょう。

④ 毎日の学校の出来事を聴いてみましょう

- ・その日、学校でどんなことがあったか、帰ってきたら聴いてみましょう。毎日、学校では新しい体験ばかりで、感動や不安の連続です。子どもにとって、自分が保護者にしっかり見守られていると感じることが、明日へのエネルギーになります。

⑤ 子どもを自立させましょう

- ・保護者が何かと先回りして、気と手を回してくれる、受け身な生活を送ってきた子は、将来が大変です。自分で出来ることは自分でやらせましょう。また、少し難しいことも体験させれば、成長に繋がります。どんどんチャレンジさせましょう。

⑥ 学校行事、PTA や地域の活動に進んで参加しましょう

- ・子どもの健やかな成長のためには、学校・家庭・地域の連携が大切です。学校行事やPTA活動、地域の育成会活動やおまつりに参加することで、先生方や保護者同士、そして地域の多くの大人たちと交流を深め、信頼関係を築きましょう。

⑦ 子どものサポーターにないましょう

- ・保護者は監督やコーチのようにあれこれと指示を出すのではなく、子どもの成長を見守るサポーターにないましょう。嬉しい時は共に喜び、つらく苦しい時は心に寄り添い、励まし続け、どんな時でも全力で子どもを支えましょう。